

無線通信分野の国際標準化業務



総合通信基盤局電波部移動通信課

奥井 雅博 Okui Masahiro

平成21年10月 総務省採用
情報通信国際戦略局技術政策課
研究推進室

平成23年7月 現職

周波数獲得のための国際交渉

携帯電話等の周波数の割当てや無線通信方式の標準を検討する ITU-R（国際電気通信連合無線通信部門）に関する業務を行っています。日本ではスマートフォンの普及などが原因で移動通信トラフィックが急増しており、周波数のひっ迫を防ぐため、さらにはより高速かつ安定して通信を行うため、携帯電話へ周波数を多く割り当てる必要があります。しかし使用周波数帯が各国でばらばらだといくつかの問題が生じます。例えば、日本が携帯電話に使用したい帯域が、ある国では他の業務（衛星通信など）で利用されていた場合、その帯域を世界共通で利用することは難しくなります。そのため、日本で使われている携帯電話が他国でも利用できるようにするためには、周波数は可能な限り世界共通にすべきと考えられています。このため、各国の周波数利用状況や社会状況、事業者の意向などを考慮した上で日本として何を主張すべきか検討し、ITU-R の会合において各国と議論を行っています。

白熱する議論

私がこれまで経験した最も印象深い業務は国際会議に参加し、各国の関係者と議論を行ったことです。私に関わっている ITU-R の会合では国益や企業の利益に結びつく交渉が行われるため、各国とも主張を激しくぶつけ合い、議論が白熱することもよくあります。全会一致が原則のため、1つの文書を作成するため膨大な時間を費やすなど、非効率と考えられることも起こり、いい意味でも悪い意味でも驚きました。

難易度高く、達成感も大きい

総務省で働く魅力は日本代表として国際会合に出席するなど世界を舞台に働けるチャンスがあることだと思います。総務省が担当している情報通信や無線通信の分野は専門性が高く、プロフェッショナル指向の方には働きがいのある仕事だと思います。各国の政府関係者、専門家との議論は難易度も高いですが、得られるものも大きいため、国際標準の専門化を目指すというのも面白いのではないのでしょうか。